

令和4年度 学校評価 前山小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	<p>【学校教育目標】 自治自立の力を伸ばし、みんなとともに未来を拓く前山っ子の育成 ～個に応じた支援で自己肯定感を高める～</p> <p>めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする子 ○学ぶ楽しさを感じながら、意欲的に自らを高めようとする子 ○互いに認め合い、自分も相手も大切にできる子 ○明るく元気に、自分ができるところに進んで行動する子
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○居場所のある学級、及び仲間づくりと、いじめや不登校のない学校づくり ○元気で明るい挨拶を心がけ、人とのつながりを大切にする意識の向上 ○「地域とともにある学校づくり」の推進による活力ある学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・・・コミュニティスクール前山による学校経営 ○「わかる・できる」楽しさを追及しながら、主体的に学ぶ態度の育成 ○個々のニーズ把握と合理的配慮による特別支援教育の充実 ○「地域を学ぶ、地域から学ぶ」の中で、郷土に対する誇りを持ち、地域活動に積極的に参加しようとする態度の醸成。 ○地域社会に目を向け、命を守る行動を意識できる防災教育の推進

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・暴力ゼロ運動の推進 ・児童家庭理解に基づく不登校対応 ・外遊びや体験的活動を推進し、覇気のある子に育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や特別活動において、いじめは人権をふみにじるものであり、絶対にしては行けない行為であることの理解を深めさせ、いじめに対して自分はどうのよう行動すべきかを具体的に考えさせてきた。 ・児童とその家庭の状況を可能な限り把握し、登校しやすい環境を整えるなど、寄り添うことに重点を置きながら、信頼関係にもとづいた不登校対応を実践した。結果として、欠席日数30日以上の子は10名であった。 ・業間やジャンボ休みなどの時間は、職員も児童に交じって外遊びを行うように努めたが、不十分な面があった。児童による自治的遊びも大切にしながら、職員の効果的な関与方法も考えていきたい。また、休み時間に外遊びをしている子は固定化している。「すすんで外遊びができています」と答える児童の割合を増やしていきたい。 ・朝の挨拶運動など、児童会を中心に、学校全体で挨拶運動に取り組んだ結果、しっかり挨拶できる児童が増えている。
	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信 ・地域や保護者に開かれた学校行事 ・コミュニティ・スクール前山による学校経営 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより「五台山」、学級通信、保健室だより、校長通信「いつせの里より」など学校に関する情報を定期的に発信し、下校のお知らせの放送の中で、その日の学校の様子も毎日地域に発信してきた。また、学校HPを随時更新し、児童の様子を知らせた。 ・地域や保護者の協力を得て、感染対策をとりながら、地域や保護者の方々に参観いただけるものも含めて、できる限りの行事を行うことができた。 ・稲作体験など、地域に出かけて体験的な活動をしたり、学校運営協議会で様々なアイデアやご意見、人材の紹介などをしていただいたり、有機農業・歴史学習・工作・クラブ活動など地域のゲストティーチャーから学ぶ機会を持ったりすることができた。その中で、教育活動の見える化も進めることができた。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、様々なご意見をいただく中で、地域の学校づくりに参画する人材を増やしていくことができた。
教育課程	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童の学習活動を保障する授業改善と基礎学力の定着 ・タブレットの学習利用の日常化と個別学習できる子の育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や週末の家庭学習で、継続的に読書活動や基礎・基本の問題、思考力を培う問題に取り組ませることにより、読解力や計算力などの基礎学力の向上を図るとともに、国語科の授業において、考える視点を与えたり、効果的な発問したりするなどして、児童に理解しやすい具体的な手だてをうち、積極的な発言を促しながら主体的な学びとなるように授業改善を行った。その結果、家庭学習に進んで取り組んだり、勉強にあきらめずに取り組んだりできることを自覚できている児童が昨年度よりも多く見られた。 ・タブレットの活用では、学校内での使用、家庭に持ち帰らせての使用、出席停止の児童のタブレット通してのオンラインでの授業参加など、様々な活用方法に取り組んだ。その結果、児童はタブレットで楽しく、効果的に学習を進めている。 ・問題発生を未然に防ぐため、情報モラル学習を計画的に実施し、「自分も友だちも傷つけない」ICTとの付き合い方を身に付けさせる必要がある。

課題教育	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性や課題に応じた児童支援 ・保護者との連携、特別支援教育の啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月職員全体で特別支援に関する情報交流を行うとともに、定期的に、また随時校内で支援委員会を開催し、特別な支援を要する児童の状況について共通理解の上、支援方法等を柔軟に検討していった。その際には、家庭や関係機関と連携を図り、学校との信頼関係の構築をこころがけた。 ・保護者に対しては、入学説明会等で特別支援学級についての啓発を行うとともに、児童に対しても、特別支援学級についてや「気持ちよく、自分のしたいことをするためには」としての啓発を学校朝会で行った。 ・特別支援学級への入級、中学校進学についての支援体制などについては、保護者や中学校、支援センターなど、関係機関と丁寧に連絡を取り、児童や保護者の見学や体験入学等を取り入れ、時間をかけて十分に納得したうえで決めていくことをこころがけた。 ・子どもの居場所づくりを第一に考え、お互いを認め合える関係づくり、環境づくりに努めてきた。その時だけの対応、今年だけの対応で終わらないよう、どのような子どもの成長を願うのかを保護者と共有して、長期的な視野で支援ができるようにしていきたい。
	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策に考慮しつつ、防災下校、引き渡し訓練、火災避難訓練、1・17メモリアル集会など年間指導計画通りに実施することができた。 ・防災教育に関するカリキュラムマネジメントを進める中で、地域と連携した防災学習に取り組む、防災への意識を高めるため、地区役員の方々と共に、豪雨災害時の状況を記入した地図や資料を参考にしながら、防災下校を実施した。
	防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者と連携した防災教育 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域(ふるさと)にある様々なものとのふれあいや社会体験などを通して、社会(世の中)を見る目を育み、将来的な自分の夢や目標を持たせていくキャリア教育を進めている。 ・学習において積極的に地域の自然、人、ものを活用し、地域を学び地域から学ぶ実践を進め「前山のことが好きになった」と言える児童の割合を高めるような活動を実施した。 ・地域を学ぶ、地域から学ぶ体験も計画的に教育活動に取り入れる一方でまだまだ生かされていない地域の教育資源を掘り起こしていきたい。
	ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育の推進(地域の教育資源の活用) 		
	教育			

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを含めた自由遊びの中から、いじめを未然に防ぐ効果も考えながら、仲間意識やいたわり、人を認める事などを学んでほしい。家庭でも外遊びの時間を積極的に増やしていきたい。 ・学校だより、校長通信、下校の放送から、小学校の様子がよくわかったので、続けてほしい。 ・地域のゲストティーチャーを掘り起こしていきたいと思っている。 ・学校行事の実施により、子どもたちが繰り返し経験を積むことを大切にしてほしい。 ・タブレットの活用により、家にタブレットを持ち帰って学習したり、コロナ対応としてオンラインでの授業参加などができたりして良かったと思う。 ・家庭での親子の対話を大切にしてほしいと思う。 ・大人になるにつれて、色々な所で人権問題に接することが多くなっていくが、人権学習に取り組んで考えたことを実践できる大人になってほしい。 ・子どもが安心して過ごせる居場所づくりを、今後も継続して推進していただけるよう、お願いします。 ・防災教育、ふるさと教育も、これから大きくなっていく子どもたちには欠かせないものと思います。 ・2014年の豪雨災害から、保護者、地域とも防災意識が高まっていると感じる。自分たちの経験も踏まえ、今後も子どもたちへの防災意識の維持、向上を図りたい。

4 次年度の改善の方向性

<p>令和6年4月に竹山小学校が開校するにあたり、令和5年度は前山小学校として最後の一年となります。通学先が変わったとしても、大切にしていけるものは何か、どんな態度や能力を身に付けていくべきなのか、それを改めて確認し、子どもたちの成長を見据えた支援をしていきたいと思えます。学校と児童、学校と家庭、学校と地域との信頼関係を築く中で、子どもたちが安心してすごせる居場所づくりに努め、児童が主体的に前向きにいきいきと学習や活動に取り組む学校を目指します。</p> <p>そのためには、児童が主体的に取り組む授業の在り方を追求するとともに、体験的な活動を積極的に取り入れ、すべての児童が学習に参加し、意欲的に取り組めるようにしていきます。学校の内外を問わず、地域の教育資源を活用し、地域を愛し、誇りに思う気持ちを育てていきます。</p> <p>そして、竹田小学校との連携を取りながら、交流事業や統合準備を進め、自信と希望を持って、新しい学校に向かう気持ちを持たせることが次年度の一番の課題であると考えます。</p> <p style="text-align: right;">令和 5年 3月 7日 学校名 丹波市立前山小学校 校長名 吉見 典彦</p>
--

